

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 21 年 9 月 18 日)

為政第二

15 子曰く、^{しいわ}学^{まな}びて^{おも}思^{すなわ}わざれば^{くら}則ち^{おも}罔^{まな}く、^{すなわ}思^{あやう}いて^{あやう}学^{あやう}ばざれば^{あやう}則ち^{あやう}殆^{あやう}し。

孔子が言うには、師匠から教わって学んだ後に、復習をしてよく考えることをしなければ現実の役には立たない。自分だけの考えだけ、我流で物事を進めていだけで学ぶことをしなければ、周りの人間も巻き込んで滅亡しかねない。

今の時代でいえば、新しい大臣が自分の知っている事だけでどんどん指示をするということは、我流でどんどん推し進めるだけで、「思いて学ばざれば則ち殆し」に合致します。自分が思うだけで、現実がどうであるか調べもしない。学問的に研究もしない。それで指示をすると、とんでもない錯誤が生じて大きな破綻をきたす。結果として、一つの事業が頓挫をしかねないし、周りの人達が次から次に討ち死にをしかねない。ここはそう読みます。

対して自民党は、「学びて思わざれば則ち罔く」だったと思います。官僚から報告がどんどん上ってくる。しかし報告を受けるだけ。学ぶべきものが来るけれども、受け取るだけで中身を精査しない。考えもしないから、自分がどこにいるか分からなくなってしまって、今回の転落劇と相成ったと読みます。

論語は何度も申しますが、自分の気に入った文章があれば、それを頭の中にしっかりと入れて、いつも口ずさんでいると、現実の世界で役に立ちます。何かの会議であるとか、大きなイベント、又は冠婚葬祭等で、急に指名されて何か話をしなければならぬような時、頭の中が真っ白になった時に、論語の中の中の科白がひとつ浮かぶと、それがきっかけとなって、自分でも驚くように次から次に言葉が浮かんで来るはずです。

ちなみに、女性が多い会合で話をする際に、この論語を紹介する事があります。御主人にもっとお金を稼いで欲しいと思ったら、料理を学んで、ご主人の好きなものを考えて食卓に出せば、ご主人も喜んで金の卵を産み続けてくれる。しかし、ただ一所懸命稼いで来いと思うだけで、何も学ばずに、いつもいつも同じような献立を気にしないで出していれば、だんだん卵も産まなくなりますとお話しています。

聞く方によっていくらでも論語は解説が広がっていきますので、何か一つでも見つけら

れるとよろしいと思います。

16 しいわ 子曰く、いたん おさ 異端を攻むるは、こ がい 斯れ書のみ。

異端とは、反物の両端を言います。学ぶ時に基本の学問を一つする。片方の端から一つ一つ反物を巻くように学問をしていけば、きちり学びきることが出来るけれども、端と端から同時にまるで違う学問をしていくと、中途半端になって、ものにはならない。したがって学ぶ時は、一つの学問に集中して学ぶが良い。それが学び終わったら、新たなものに移るが良いと言われています。

これは論語を学ぶ時に、朱子学と陽明学という学問があります。明治維新を思想的バックボーンを育んだ人で佐藤一斎という大儒学者がおりますが、佐藤一斎は自分の弟子3千人に朱子学を教えました。これは官学は朱子学となっておりますから、強制されているわけです。朱子学は理論的に分析していく学問ですから、 $1 + 1 = 2$ ということをずっと教えていく。看板は朱子学にして、朱子学を卒業した見どころのある弟子にだけ、陽明学を教えたという話が残っています。陽明学者で錚々たる人達は、大体、朱子学を卒業して陽明学に入っています。

学問をする時はまず、基本となるものを一つ完全に自分のものにしてから、次の学問に進むと良いとここでは言っています。

17 しいわ 子曰く、ゆう なんじ 由、女に之を知これ しることをおし誨えんか。これ し 之を知これ しるをな しば之を知しるとな し為し、し 知らしざるをしばな知らしずとこ為す。し 是れ知るなり。

一知半解、知ったかぶりはやめましょうということです。

孔子が、子路が知ったかぶりで話をしているのを小耳に挟んだのでしょう。子路に対して、「自分で十分知っていると思ったなら、知っていると言ってもよいけれども、知らないと思うものは、知らないと言いなさい。これが知っているという事なのだ」と子路に教えたわけです。

「知らない」と言える人は、何か専門を持っている人だと思います。この土俵に上れば私は誰にも負けないというものを持っている人は、「知らない」と軽く言える。ところが、人間ですから、どうしても知ったかぶりをしてしまいがちです。一知半解で知ったかぶりをすると、後で周りも巻き込んで困る事になるからやめましょうということです。

先日、一知半解は怖いなと思ってテレビを見ていました。国民新党の亀井大臣が、中小企業がお金に困っているから、3年間は元利を延期すべきだと話していますね。元利延期という事は徳政令につながりかねない。言い方を変えると、踏み倒しになります。国家が踏み倒しを認めることになると、金融の仕組みは根っこから変わってしまいます。亀井大臣は多分、自分の知っている中小企業の人達が資金繰りで困っているので、短絡的に3年間の猶予と言い出したのだと思いますが、それがそのまま通るとしたら、日本の国は危いなと感じました。

国家がデフォルト(債務不履行)をすると、その国は経済破綻をしたということで、国家としての機能を果たせなくなった国という烙印を押され、国際社会から退場を命ぜられる。そしてIMFが入ってきて、その国の建て直しを図るという流れになります。そのように繋がりがねないことを、亀井さんは喋っていると思いました。「知る」という言葉を亀井さんが知っていれば、ああいった言い方はしないのではないかと思いました。ただ、怨念があるから、あそこまでやったのだらうと感じました。

時間でございます。有難うございました。